



あすなろ

2018年3月

No.3

あすなろ担当

宿毛・大月・三原ブロック
(宿毛・東グループ作成)

今年度も残りわずかとなりました。一年間の締めくくりとして、忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

年度末年度始めと、一年で最も忙しい時期を迎えますが、体調管理に気をつけて、元気にがんばりましょう！

それでは、今年度最後のあすなろをお届けします。



平成29年度幡多地区採用2年次研修報告(要約)



今年度は2人一組となり、合計4校を訪問しました。

清水中学校での研修は、少し緊張しながら、どんな研修になるんだろうと期待に胸を躍らせながら向かったことでした。

清水中学校では、実際の要望書や添付書類を見ながら予算要求の流れや書類の説明をしていただきました。想像していたよりも細かい内容の要望書でとても大変そうでしたが、それらの金額の必要性を説明するヒアリングの場があることはとても良いと思いました。しかし、備品などを購入する必要が無くなった場合に余る備品費をどう使うかというところは要求型ならではの悩みだなと感じました。ただ、あらかじめ決まっている予算をいかに効率よく執行するか、ということも事務職員としてやりがいを感じるところでもあります。予算に対しての考え方も色々ある事を知って楽しく感じました。

小学校と中学校の大きな違いの一つに部活動が挙げられます。今回の研修ではそんな中学校ならではの特殊勤務手当についても学ぶことができました。講義では対外運動、部活動の業務手当を中心に教えていただきました。一通り説明を受けたあとに演習問題を解きましたが、赤ペンで何個もの訂正が入り、事務にあまり関わりがなく、把握が難しいことでも処理しなければならないという所はやはり大変だなと学んでみて改めてわかりました。

「清水JHS」という清水中独自の校内情報システムについても教えて頂きました。複数の情報を一つのシステムで管理できることはとても魅力的だなと思いました。これから先、校務支援システムはどんどん取り入れられてくると思います。それがどんな形になるかはわかりませんが、その時に積極的に関わられるよう学習を積んでいきます。

今回、清水中学校で研修を受けてみて、新しいことを取り入れるためには、常にアンテナを張り巡らせ、最新の情報を得る必要があります。国の提言や政策に関してはまだまだ勉強不足です。手元に情報が来ることを待つだけではなく最新の動きを求めていく積極性も身に付けていこうと思えた研修になりました。

大方中学校での訪問研修では、校長先生からの講話がありました。その後、特殊勤務手当等についての研修、黒潮町の共同実施組織の取組についてお話を聞きました。黒潮町の共同実施組織の取組では、教育研究会夏季研修会で提案した教員向けの業務改善に関するプレゼンを見せていただきました。その後、四万十市・土佐清水市の共同実施組織内の取組についても情報交換でき、実りある研修となりました。

予算に関すること・就学援助事務など間接的ではありますが子どもの教育にかかわっていけることがあります。チーム学校といわれていますが、それが学校組織の一員として私たちにできることであり、職員全員で一丸となり学校を運営していくことに繋がるのだと考えました。今後も更なる高みを目指し励んでいきたいです。

西土佐小・中学校を訪問して一番感じたこと、それは「誰が見ても分かりやすい環境づくりがおこなわれている」ということでした。事務職員でも先生でも、「ここで働いたら、仕事がかどろそうだな～」と思えるような工夫がたくさんしており、私たちはちゃんと学校の職員という目線で仕事をしてきたかどうか、反省する機会となりました。事務の仕事に関しては去年よりミスなく、滞ることなく、出来るようになったと思いますが、出来る・分かるという事が、自分たちの中だけで終わっていたかもしれないな、と思いました。

学校の、いち職員として、自分だけが分かる・出来ることを目指すのではなく、職員全員で分かる・出来るようになることを意識して業務にあたっていきたい、と改めて思いました。

宿毛小学校では、宿毛市独自の事務システムについて、芳奈分室について、共同実施等について総括主任、主事から説明いただきました。

校長先生に「事務職員は学校の顔です」と言っていただきました。外部から来られた方に一番に会うのは事務職員だと思います。「感じのいい学校だな」と第一印象でおもってもらえるようにしていきたいです。また、「自分の幸せも大切にしてください」とお話しいただきました。たくさんの方の話を講話して頂きましたが、今の自分、過去の自分、これからの自分を考え直す時間になりました。

今回の研修は本当に身になるものでした。同じ幡多内でも市町村が変わるとこんなに違うのかと思ったほどでした。色々な学校を見て自分の学校に帰ったとき、自分のデスクを見たとき、どうにかしなければと改めて思いました。

今回学んだことを全部活かします！ということは難しいかもしれませんが、まずは現状をしっかりと把握し、何が足りないか、何から取り入れることができるかを考えていきたいです。充実した研修でした。また機会があれば色々な学校を訪問したいと思いました。

他市町村の学校を訪問することができたのは、とても貴重な経験でした。また、自分が行けなかった学校でも、訪問したメンバーの報告書を読むことで、一緒に学ぶことが出来ました。これは出来ない、あんな風には出来ない、とネガティブに仕事をするのではなく、今の私なら何が出来るか、を考えながら、ポジティブに楽しく働こうと思います。このように学び合える同期がいて、本当に恵まれていると思います。

全ての研修が終了した後にはお疲れ様会をしました。年齢もタイプもばらばらですが本当に仲良く、研修も楽しく受けることができました。これからも互いに高めあい業務に研修に当たっていきたいと思います。



四万十市立中村南小学校
黒潮町立大方中学校
土佐清水市立幡陽小学校
四万十市立大用小学校



第419回教職員等中央研修 第1回事務職員研修に参加

四万十市学校事務支援室 主幹

6月12日から16日までの5日間、つくば市にある独立行政法人教職員支援機構で開催された「教職員等中央研修 第1回事務職員研修」に参加してきました。講義内容については、県・幡多地区冬季研修会で報告させていただきますので、研修を受講して、印象に残ったことを取り上げてみます。

スクールトークができる事務職員に！

○リフレクション（振り返り）

これからの時代は、複雑に絡み合い先を見通すことが難しい。結果はどうだったのか。ダメだったときはどうすればよかったのか。自分自身を客観的に見るメタ認知力が必要で、様々な角度から振り返ることで成長することができる。

○繋ぐ

これからの学校は、個ではなく組織として動いて最大限に発揮していく。そのとき、6つの資源（人、モノ、金、ネットワーク、情報、時間）を繋げないといけない。その中で、人は他の資源を上手に使いこなす人材育成が大切になる。他の資源は使ったら「0」になるが、人は使えば使うほど能力が上がる。でも落とし穴があって、使いすぎて潰れるとマイナスに働くので注意しないとけない。

○仕組みづくり

個人ではなく組織として仕事を進める方法を構築する。仕組みづくりにゴールはなく、検証して、改善して、そして実践して、この繰り返しでより質を上げていく。すべての講義で仕組みづくりの重要性が話されました。

人材育成は若年者だけではなく、事務職員全員が意識を高め合い、周りの人との信頼関係をしっかり築いて「子どもたちの未来のために」頑張らなければと思いました。

～夜の交流会にも参加しました～

1日目：校長先生と事務職員の合同交流会（とにかくすごい人数でした）

2日目：四国4県の事務職員と・・・

（2日目の「四国会」は引継ぐように頼まれました。次の人（?!）覚えていてください!）

3日目：ユニットでの交流会

☆最終日の演習でグループ発表者となった、窪川中の さんが170名の前で、3日目の交流会で私が自己紹介した内容と同じことを言いました。

「高知県から二人参加していますが、四万十町と四万十市からきています。全く別の自治体ですので、知っておいてください。」

（打ち合わせをしていた訳ではないのですが・・・同じこと言っていると、メンバーから注目を浴びました）



防災の取り組み、各市町村では…



前号では、黒潮町・土佐清水市・四万十市の情報をお伝えしました。
今回は、三原村・大月町・宿毛市の情報をお届けします。
防災の取り組みは、学校現場、行政ともに各市町村まちまちです。
まずは、自分の地域の取り組みを知り、その中で学校の有りようを考えていくことも重要だと思います。壮大なテーマではありますが、今後も研究や学習を進めて、少しでも役立つ準備をしたいものです。

三原

〈全体としての取り組み〉

- 平成28年8月、3年越しの予算要求で、小中それぞれに緊急地震速報（校内放送と連動して全校放送される）を設置。
地震避難訓練は、緊急地震速報の訓練放送を用いて実施している。
- 耐震工事は両校ともH23実施済。H25体育館実施済。
- 窓ガラスは強化ガラスに取替。古いガラスには飛散防止フィルムを貼附。
- 蛍光灯はLEDに交換。（校舎及び体育館）
- 家具転倒金具取付工事をH25年度実施。
地震の際に棚等が転倒しないように、金具で固定した。
- 毎年、1学期に小中合同の避難訓練を実施。中学校体育館において、保護者への引渡し訓練を行っている。
その際は、学校提出の引き渡しカードを実際に活用している。

〈学校独自の取り組み〉

- 小学校では毎年1回、起震車体験を行っている。

大月

〈全体としての取り組み〉

- 避難訓練・・・・学期に1回避難訓練を実施（1・3学期は小中合同）。
- 起震車体験・・・・小学校2・4・6年生、中学校1年生で起震車体験を実施。
- 緊急地震速報・・・・大月町では全戸に告知放送端末機が設置されており、震度4以上の地震で警報が自動的に発信される。
- 防災給食の日・・・・東日本大震災以降、3学期の避難訓練の日は防災給食を実施。今年のメニューは備蓄用保存食（白飯）、野菜ジュース。放課後、カンパンとLL牛乳を配付する。白米とカンパンについては、町より賞味期限が近づいたものをもらった。
- 研修会・・・・今年度は、小中連携教育夏季研修会で避難所運営を実施。教育委員会と小中の職員でグループに分かれ、カードを使用して避難所運営を体験した。

〈学校独自の取り組み〉

- 小学校・・・・1・2年生は消防自動車の見学、3・4年生は放水訓練、5年生は消火体験、6年生は煙体験を行った。
遠足（全学年）と宿泊学習（5年生）では、現地で地震が起きたことを想定し、避難訓練を実施している。
- 中学校・・・・津波が来た場合の、各地域の避難路の写真を撮り掲示している。
1年生の総合学習では、ビニールで米を炊く体験や簡易トイレの作成、非常持ち出し品と備蓄品について考える学習や町の備蓄庫の見学（予定）を実施。

宿毛

〈全体としての取り組み〉

- H27年度より共同実施で防災について研究。「防災に関する資料」として、学校での備えや事務職員としてできること、学校再開についての様式等について考えてきた。
(非常持ち出し例、ストックしておく備品のチェックリスト、避難所を想定しての校舎平面図、防災関係連絡先一覧、引渡しカードなど)
- H29年度は、過去2年間研修したことを学校で実践的に提案するためという視点で、学習を重ねた。自分の学校の教育計画や防災マニュアルを改めて見直すことで、市との連携や、私たち自身を含めて、学校職員のよりいっそうの意識改革など、大きな課題が見えてきた。
- 代表3人が8月の防災教育研修会に参加して、被災地の先生の生の声を聴いたりHUGの体験をした。(自分たちが何を考えてどう動けばいいのか考えを改めるきっかけになった)
- 市の取り組みでは、今年度より、宿毛市危機管理課主催で広域避難所運営研修・訓練(行政・学校・地域が共に研修)が行われている。実際、現場で活用できる避難所運営マニュアルが作成され、必要な様式も整理されている。(今後も避難所になる学校を中心に計画される予定)
- 上記の研修では、かなり実践的な様式が整備されている。今後は学校再開のために必要な様式や流れを整理していく必要がある。

〈学校独自の取り組み〉

- 備品倉庫の備蓄備品の一覧を教育計画に入れている。(誰でもわかるようにする)

宿毛小学校防災備蓄用品 「教育計画」防災に入れている(写真無し)					
①忠霊塔備蓄倉庫		※倉庫の鍵:①職員室西入り口の壁 ②非常持ち出し袋 ③校長・教頭机の間			
品名	数量	備考	品名	数量	備考
長期保存水(2ℓ×6本/箱)	37箱	H32年6月まで	児童名簿(クラス別)	各3枚	よみがな付
リット保存缶L(6缶/箱)	20箱	H32年1月まで 85g×5パック/缶	クリップボード A4	12枚	児童名簿用
備蓄用ラスタ(35袋/箱)	3箱	H32年2月まで 1袋70g入	鉛筆(キャップ付)	12本	
井村屋「えいようかん」 (60g×5本/箱)	80箱	H32年7月まで アレルギー対応食	鉛筆削り	1	小型
紙コップ 50個/パック	20		プロッキーツイン(水性)	1	8色セット
防寒シート(1人用)	370枚	市教委から	油性マジック	4	黒4、赤1、青1
ネックライト	16個	市教委から	赤青鉛筆		
ブルーシート	12枚	2.7m×2.7m	オーグ		
トイレトペーパー	1袋	150m×6ロール	ハサミ		
古新聞	50日分		カッター		



- 浸水地域(津波等大規模災害以外、台風などでも浸水する可能性がある)の重要書類を守るため…指導要録をジップロックに入れて、耐火書庫内の高い位置に保管している。

『事務長よい』

四万十市学校事務支援室
事務長

○はじめに

今回の「あすなろ」への寄稿も担当の方からの依頼を受けて二つ返事でOKさせていただきました。いつものことですが、いざ書くとなった時には皆さんに少しは役立ちたいという大層な思いを持って悪戦苦闘の日々を送ることになります。そういった私の心境や状況を皆さんに思い浮かべてもらってこころ温かい気持ちで読んでいただければ幸いです。

○役割は人を育てる

本年度幡多の事務研は役員が一部を除いてブロックの輪番制に移行したことは皆さんもご承知のとおりです。自分が若い頃にも輪番制の役員を引き受けたことがあります。その時は1年の短い周期で交代していました。当時の記憶では1年を乗り切れれば、また楽ができるというような今思えば情けない気持ちで役員をやっていたように思います。

しかし、本年度役員を担当している四万十市中堅・若手の皆さんには、当時の私のような気持ちで役員をやっている人はいないように感じます。それぞれ任せられた役割を自覚して、自分に与えられた責任を果たそうとする姿が見えています。先日の冬季研修会での支部長あいさつ・副支部長のメのあいさつはどちらも心に響く内容だと皆さんも感じたのではないのでしょうか？ 肩肘を張らずに自分の言葉で今の時代の要請を真摯に受け止めて、お互いに頑張っていこうとの気持ちが良く表れていました。

さて、自分のことをもう少し振り返ると私にとっての転機は、中村中学校勤務の終盤から中村南小学校勤務が始まった頃のように思います。中村中学校勤務の頃は幡多でも一番大きな学校で自分なりに事務処理はつつがなくできており、校内では職員との信頼関係も築けて満たされた気分で勤務していました。

今の自分からは想像もつかないと思いますが、周りの事務職員の方から聞かれば情報提供などしていましたが、自分の仕事を周りに拡げる気持ちなどは毛頭持っていませんでした。そんな私を当時の先輩（さんやさん）が心配してくれて、色々な場面で前に出るように仕向けてくれたのが中村中学校勤務の終盤の頃でした。

そして、中村中学校での勤務も10年が経ち、今の県教育次長が校長に昇任すると同時に中村南小学校に異動になりました。教育次長との勤務はわずか2年間でしたが、県教委の方針や取組み・教育の方向性など、今まで自分にはあまり関係ないと思っていた情報に身近に触れることができました。

その後、3年目に総括主任に昇任して年度末には、高知県の学校事務のあり方検討委員会委員の委嘱を受けて、総括主任としての役割・責任を徐々に自覚するようになってきました。早いものであれから13年が経ち、その間に四万十市の皆さんと共同実施組織の整備や支援室設置に取り組んで実現することができました。こういったことを身を持って経験して思うことは、チャンスを与えてくれた方や背中を少し押していただいた方が自分の回りにいて良かったとの思いです。今の総括主任の皆さんや先輩の皆さんは中堅・若手の方の伸びるタイミングを見定めて役割や責任を与えて下さい。またそのチャンスを与えられた皆さんは、自分が育つためと認識して思いっきり前進していってもらいたいと思います。これから定年延長もされる世の中で職業人としての転機は何度かやってくると思いますが、後々にあの時が私の事務職員としてのターニングポイントだったと、はっきり言えるようになって下さい。

おめでとうございます

土佐の教育奨励表彰を、四万十市立西土佐小学校 総括主任 さんが、
土佐の教育実践表彰を、宿毛市立宿毛中学校 主幹 さんが受賞されました。

受賞されたお二人にコメントをいただきました。

土佐の教育奨励表彰



このたび土佐の教育奨励表彰という大それた賞をいただき恐縮しています。申し訳ない気持ちばかりですがこのような場を設けていただきありがとうございます。

県教委が催して頂いた表彰式は厳かな雰囲気でした。指定されたイスに座り、周りを見ると賢そうな方々ばかり入場してきます。来賓としては県教委の課長さん方が勢揃い、そのうえ教育長さんや県議会議員の方まで隣席して頂くという場所でした。

学校を出る時から緊張していた私は緊張マックス！表彰状を取りに行く時に立つことができるのかと心配するくらいでした。手も足も震えていて返事をする時の声もうわずっていましたがなんとか 教育長から表彰状を受け取ることができました。

前々から学校事務職員もこのような表彰を頂けることをうれしく思っていました。「まさか！私？」という気持ちで、大きい体を小さくしています。ただ、「もっとやれよ！しっかりしろ！」という声を感じています。微力ながら頑張ろうと思っています。いろいろ相談相手になり叱咤激励して下さい。

学校事務職員の皆さんはそれぞれ知識もあり人間性も豊かな方ばかりです。個々の力を学校はもちろん共同実施や事務研究会とさまざまな場面で発揮し、「子どもたちのため」「学校のため」「地域のため」に強い組織づくりのマネジメントができる事務職員になれるよう共に学び共に育ち合っていければと願っています。これからもよろしくお願い致します。

四万十市立西土佐小学校 総括主任

土佐の教育実践表彰

この話を伺ったときは、頭の中にたくさんの「？マーク」が飛び交いました。受賞できたことを、とても光栄に思う反面、なにか、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

これまでに表彰を受けられた、先輩や、同年代の方々の日々の実践や活躍を思うと、この受賞が今の自分にふさわしいとは思えませんが、今日まで、たくさんの仲間との出会いや繋がりに感謝しながら、なお一層、がんばっていきたくと改めて思います。ありがとうございました。

宿毛市立宿毛中学校 主幹

今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



はたっぴ〜れぽ〜と



平成29年12月15日(金)

実践交流ミニプレゼン

研究部員全員が1人2分で「仕事の工夫」「お勧め文具」などをプレゼンしました。短い時間でいかに分かりやすくみんなに伝えることができるか、そういった力も必要なことです。職員会等でもダラダラ長くしゃべっても聞いてはもらえません。要領をまとめて簡潔に相手に伝えることは大事ですね。

PCでの諸帳簿の工夫、印鑑、のり、キーボード、メモ用紙、付箋用紙、電動ホッチキス、メールの時短、新聞活用、パイプ椅子、ソート印刷、連絡方法、スリム化箱、スクールプランニングノート、毎日修造、職員への周知、打合せノート、パンチ穴補強シールスタンプ、授業が変わっている、3つのことを同時にできる訓練……。
でるわでるわ、研究部員の知恵と工夫がたくさんできました。また、視覚に訴える資料も準備され、その一部が2/9の幡多冬季研修会でも入り口のホワイトボードに掲示されました。

平成30年1月19日(金)

ケースメソッド研修

これから必要とされる「協働して問題解決力」をつけるために、全事研で開発されたケースメソッド研修を行いました。今後は春季や冬季の研修会でも取り入れていきたいと考えています。

『いったい何時まで仕事しているの?』

今話題の「働き方改革」、職場のワークライフバランスを考えるケースでの課題・問題を整理し、事務職員・教員・管理職がどう対応し、どう行動していけばよいかをグループでディスカッション・模造紙にまとめていきました。最後に各グループから発表し、共有を図りました。

出た意見は、社会常識のなさ、長時間学校にいることの間違った「頑張っているアピール」、職員間のコミュニケーション不足、学校の常識を変えるために言い続けることの大事さ、視野を広げる……。それぞれが自分の職場でも実行していくべきことがたくさん出されました。

研究部会に来ると楽しいよ。待ってます。
いつでもどうぞ!

